



美しき瀬戸の海。過疎の町に
 グローバリズムがやってきた。
 「歴史の歯車」が、
 いま、静かに回り出すー！

日時 2018年9月27日(木) 19:00~
会場 大竹財団会議室 東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F
参加費 一般=500円/学生、大竹財団会員=無料 **定員30名【要予約】**
主催 一般財団法人大竹財団 <http://ohdake-foundation.org>



第68回 **ロカルノ国際映画祭** 正式招待

想田和弘監督作品 観察映画第6弾

[か き こ う ば]

牡蠣工場

OYSTER FACTORY

Web予約
 PC・モバイル共通



<https://goo.gl/bFqF6s>

ナント三大陸映画祭 コンペティション部門正式招待
 バンクーバー国際映画祭 正式招待
 モントリオール・ヌーヴォー・シネマ映画祭 正式招待

監督・製作・撮影・編集：想田和弘 製作：柏木規与子 配給：東風+gnome 2015/日本・米国/145分/DCP ©Laboratory X, Inc. www.kaki-kouba.com

映画で世界を変えるなんて、無理なことかもしれない。
しかし想田和弘の映画は、「変わりゆく世界」の見方を教えてくれる。

—— オレリー・ゴデ (ロカルノ国際映画祭プログラマー)

「大切なことは、いつも小さな声で語られる」。
本作の、カメラはそう言っているように思える。

—— 平川克美 (文筆家)

観察する「カメラ=身体」は記述の道具ではなく、偶然性を受け入れ、
変化する現場の一部となるくらいダイナミックで生き生きとしている。

—— 港千尋 (写真家)

「かきこうば」 牡蠣工場

人々が織りなす豊かで複雑な物語

舞台は、瀬戸内海にのぞむ美しき万葉の町・牛窓^{うしまど}(岡山県)。岡山は広島に次ぐ、日本でも有数の牡蠣の産地だ。養殖された牡蠣の殻を取り除く「むき子」の仕事は、代々地元の人々が担ってきた。しかし、かつて20軒近くあった牛窓の牡蠣工場は、いまでは6軒に減り、過疎化による労働力不足で、数年前から中国人労働者を迎え始めた工場もある。東日本大震災で家業の牡蠣工場が壊滅的打撃を受け、宮城県から移住してきた一家は、ここ牛窓で工場を継ぐことになった。そして2人の労働者を初めて中国から迎えることを決心。だが、中国人とは言葉が通じず、生活習慣も異なる。隣の工場では、早くも途中で国に帰る脱落者も。果たして牡蠣工場の運命は？



小さな世界から垣間見える グローバルで巨大な問題

ロカルノ国際映画祭に正式招待された本作は、「珠玉の智慧に満ちた映画」「目から鱗の現代日本の姿」「想田監督の最高傑作」などと、世界の批評家やメディアなどから絶賛された。牡蠣工場という小宇宙に、グローバル化、少子高齢化、過疎化、第一次・第二次産業の苦境、労働問題、移民問題、そして震災の影響など、大きな問題が浮かび上がってくる。想田和弘が見た世界の「現在」と日本の「未来」とは？



【牛窓について】 about Ushimado

「日本のエーゲ海」と呼ばれる牛窓は、古代からその名を知られ、万葉集では柿本人麻呂の作ともいわれる歌に詠まれている。菅原道真も歌を残している。中世には風待ち、潮待ちの港として栄え、朝鮮通信使の寄港地にもなった名勝地である。現在は岡山県瀬戸内市の一部となり、「過疎地域」に指定されている。牛窓の 後の潮さみ 島響み 寄せえし君に 達はすかもあらむ 柿本人麻呂



新刊情報

『観察する男 映画を一本撮るときに、監督が考えること』

著者：想田和弘著、ミシマ社編
発売元：ミシマ社 2016年1月22日 価格：1800円＋税

『牡蠣工場』が完成するまでの2年間を追って、撮影前、撮影後、編集後と、そのときどきの監督を取材。いわば、「観察映画を制作する想田監督を観察する」という、不思議なドキュメンタリーノンフィクション。

監督・製作・撮影・編集：想田和弘 製作：柏木規与子 配給：東風+gnome 2015/日本・米国/145分/DCP ©Laboratory X, Inc.

www.kaki-kouba.com

上映会のご予約・お問い合わせ 一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階

JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

https://ohdake-foundation.org 03-3272-3900

Googleマップ QRコード



スマートフォン・タブレットのQRコード
アプリで読み取ると、現在地から会場
までのアクセス方法が検索できます。

